

北海道大学落語研究会資料

北海道大学落語研究会は創立より四十七年を迎える由緒ある大学公認サークルです。

この資料は当サークルへの入会にご興味を抱かれている在校生及び新入生に向けて書かれたものであり、サークル活動の概要とその大まかな様子を乗せたものです。

Q1 普段何をやっているの？

落語研究会の一般的な活動は、クラーク会館三階和室にて行われる「定期寄席」を基準に行われます。出演は、毎回の強制ではありません。これらの寄席に向け、各演者（サークル会員）が演目・ネタを練習し、お客様を招いての発表を執り行うものと考えてください。

寄席に関わるその他の活動も様々で宣伝広報のための看板、チラシ作りや三味線・太鼓をもちいたお囃子の練習もあり、高座に上がらないからといって、決して寄席にかかわることがないというわけではありません。誰もが、本番においても、その前の準備においても何らかの形でかかわることになります。

そうでない場合の活動や報告会は毎週火曜日の例会にて行われます。ここでは週ごとの寄席の準備状況、出張落語の人員の割り振り、会計などが行われ、いわばサークルとしての運営が行われる集会だと思ってください。



Q2 落語しかダメなの？

当サークルでは、落語のみならずその他のお笑いも寄席でやることができます。漫才は色物として必ず定期寄席には組み込まれ、お客様からも大変高い評価をいただいております。

コントや物まねといったものもまた、例会で話し合われ、そのネタが可能かどうかの検証、認可を得たうえで上演されます。

その他の演芸に関しましても同じです。



Q3 出張落語って？

活動の内容上、様々な方面から「うちに来てやってくれないか」とのお声をいただいております。新年会や宴会、何かの催し物の出し物として来てくれないかといったご依頼がほとんどです。このようなご依頼に対し、ボランティアとして赴くのが出張落語という制度です。

年間二百を超えるご依頼をいただいております。依頼のほうも落語だけでなく中には漫才や大喜利といったご要望もあります。先に書いた通り、出張の割り振りは例会にて行われます。交通費は依頼者より支給されるのでご安心下さい。

Q4 会員はどれくらい？

大まかに、活動しているのは四十人くらいで、男女比は3：1。上下関係も厳しくはなく、例会やサークル会館に気を張ることなく気軽に顔を出していただければありがたいです。

先の出張落語も定期寄席もこのうちの一年二年三年目を中心となって行われるので、新入生だからと言って上級生に高座に上がる機会が奪われるといったことは、まずありません。本人のやる気次第です。



Q5 時間はどれくらい必要？

火曜日の定例会議（例会）で必要事項や注意事項の伝達、仕事の割り振りが行われます。これも基本的に出席は自由です。時間にゆとりがないとき、病気の時などは無理せず出席せずとも大丈夫です。しかし、例会での決定事項は同じ落研サークルの知り合いか、遅くとも次の週までには把握しておきましょう。大事な決定はメーリングリストを用いて布告されます。

Q6 練習はどんな感じ？

練習は各々に任せてある面が多々あります。しかし、定期寄席の前には必ず練習会が開かれるので、そこで自分の仕上げた落語について先輩や同期の会員から批評の言葉をもらうことになります。それを元に、最終的な発表できる「落語」を仕上げることになります。

Q7 どこで活動しているの？

例会は主に大学構内のクラーク会館三階和室にて行われます。それ以外の活動は大学西部の恵迪寮横にあるサークル会館にて行われます。放課後になれば大方、誰かいるので顔を出していただければ幸いです。

作成：熊殺ノ鬼兵衛

概要：電気屋たん楽

連絡先：hokudai_ochiken@hotmail.com

（見学並びに質問受け）